

周囲の人々の力を信じ、 医の志のため、 あえて困難を引き受ける

24時間365日オンコール状態
疲弊せずに緊張感を保つ

「犬山中央病院(当時)の循環器センターの立ち上げを引き受けられた決め手は何だったのでしょうか。」

「まず第一に、院長先生のお話から『地域を守りたい、急性期病院としての役割を担っていかないと』という強い思いを感じました。それに加えて、当時は45歳で、よりハードなことに取り組むたいと思っただけでなかったんです。循環器センターの立ち上げは簡単なことではありませんが、私でお役に立てることならばと、え、お引き受けることを決断しました。」



「救急対応だけでなく、病後のケアも含めて地域の人々の健康を守ることが私の最終的な目的です」と伊藤先生。写真は病院内のリハビリ室。

「不安はありませんでした。」

「私はそのまでの経験を通じ、看護さんや検査技師さんなど、いわゆるコメディカルスタッフの皆さんの中にも、医療者としての使命感をもって取り組んでいらっしゃる方が大勢いて、力になってくれることを強く感じていました。今も同僚の皆さんとに出会い、力になってもらっているはずだと信じていましたので、不安を感じることとはありませんでした。」

「横かに案ではありませんでした。幸い募集に応えてくれた人がいて医師の人数は少しずつ増えました。とはいえ、この病院は二次救急医療機関の指定を受けていますので、基本的に24時間365日オンコール状態。2年間は、京都にある実家にも帰ることはありませんでした。」

「そういう状況では、体力的な疲労だけでなく、緊張感を保ちつつも、疲弊してほくないようにしなければなりません。地域医療のためにはがんばっているのは嫌いなんですが、それだけだと目標が大きすぎてなかなか達成感が感じられず、精神的にきつい部分があるんです。そうならないためには、理解し協力していたいただける近隣の開業医さんや、院内のコメディカルスタッフ、あるいは救急搬送に携わる消防隊の皆さんと、共にがんばっていただける仲間を増やし、新たな体制をつくったり一緒に勉強会を行ったことが大切だと思います。私も、皆で大きな目標に向かって進ん

でいるんだ、1人だけでつらい思いをしているんじゃないんだという手ごたえを感じながらのように努力しました。」

論文執筆は医師としての責務 そして先人への返返し

「論文執筆や学会発表にも、精力的に取り組んでいらっしゃいますね。」

「私は研修医1年目のときから、学会発表をさせていたんです。論文も書かせていただきました。先輩が思っていたんだと思います。ある先輩が『意欲があるんならがんばってみる。それを助けるのが先輩だ』といういろいろ指導してくださったんです。また、研修医4年目のときに『日本臨床』という本の分科執筆の依頼をいただきました。学会発表や論文執筆をさせていたのだからだと思えますが、当時としても稀なことだと思います。」

学会発表や論文の執筆は、思いつきでするわけにはいきません。必死になって勉強し、臨床にも取り組むことになります。そういった積み重ねは必ず自分の糧になるんですね。そしてそれは、最終的には患者さんに対するよりよい治療につな

がって行くと思えます。」

「若手の先生方にも、論文執筆や学会発表を勧めたいから、専門誌に投稿



総合犬山中央病院では、MRIをはじめ最新の機器を導入。



若手医師と患者相談による所見について意見を交換。若手育成も自分の大切な仕事だと伊藤先生は語る。

方々大きく成長させることにつながると考えています。」

「論文執筆などに取り組むのは大変なことだと恐ろしいですが、

「論文執筆にこだわる理由は、実はもう一つあります。今、私たちがこうして医療に取り組めるのは、先人たちが苦勞の中から発見したことが、論文として残されているからなんです。論文を通して様々なこと



忙しい時節の合意をめぐって、MSさんとも懇話。あらゆる機会をとらえて情報を収集する。

を教えてください。それについて、だとして、新しい知見を得たらそれを論文として次の世代の人たちへ伝えていくことが医師としての義務だと、現代の医師の礎となる多くの知見を残してくれた先人たちへの感謝に繋がると思うのです。」

病院から15分以内の場所に住む

私は、「病院から呼び出しがあった場合、15分以内に駆けつけることができる場所に住む」ことを自分に課していました。課後、床についているときもあんなにしょうから、実質的に通勤時間として考えられるのは5〜10分程度です。ところが、救急医療を担う病院の循環器内科を担う者としての責任だと考えています。」



伊藤 一貴 先生

1961年10月6日、京都府生まれ。
1989年京都府立医科大学卒業、1997年同大学院卒業。
朝日大学附属村上記念病院循環器内科准教授、
武田病院循環器センター部長などを経て、
2008年より現職。専門は循環器内科、
運動形成術、心臓検査学。



総合犬山中央病院
愛知県犬山市大字五郎九字二丁目6
犬山市の中央部にあって、愛知病状条野、大町の一角、岐阜県各務原市東部、可児市西部地区を診療圏とした、地域完結型、中核、総合病院。一般病床316床、職員数400名。創立30周年となる2013年4月に病院名を総合犬山中央病院に改称。



今回、伊藤先生を訪ねたMSさん
株式会社スズケン
名古屋営業部 一宮支店 病院課
係長
高岸 秀樹さん
1969年7月21日生まれ、
賢座、B型、趣味：旅行